



2022年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年12月3日

上場会社名 モロゾフ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2217 URL <http://www.morozoff.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 信二
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 山岡 祥記 TEL 078-822-5000
 四半期報告書提出予定日 2021年12月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年1月期第3四半期の業績 (2021年2月1日～2021年10月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年1月期第3四半期	16,386	4.1	△38	—	61	—	△350	—
2021年1月期第3四半期	15,744	△16.1	△777	—	△661	—	△632	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年1月期第3四半期	△99.69	—
2021年1月期第3四半期	△179.88	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年1月期第3四半期	22,716	16,188	71.3
2021年1月期	24,039	16,778	69.8

(参考) 自己資本 2022年1月期第3四半期 16,188百万円 2021年1月期 16,778百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年1月期	—	0.00	—	60.00	60.00
2022年1月期	—	0.00	—	—	—
2022年1月期 (予想)	—	—	—	60.00	60.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年1月期の業績予想 (2021年2月1日～2022年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,250	2.2	1,240	65.0	1,280	48.5	570	61.8	162.11

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年1月期3Q	3,669,226株	2021年1月期	3,669,226株
2022年1月期3Q	152,423株	2021年1月期	153,497株
2022年1月期3Q	3,516,425株	2021年1月期3Q	3,516,021株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる場合があります。

業績予想に関しましては、3ページ【当四半期決算に関する定性的情報】(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
3. 補足情報	7
販売実績	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるものの、ワクチン接種の進展に伴い新規感染者数は急速に減少しており、長期にわたり抑制されてきた経済活動にも緩やかな回復の兆しがみられる状況となりました。

当社が属する洋菓子業界におきましても、国内全域で断続的に繰り返し発出された「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」が9月末で解除され、移動や外出などの制限が緩和されたことにより、個人消費は弱いながらも持ち直しの動きがみられる状況となりました。

当社はこのような環境下にあっても、企業スローガン『こころつなぐ。笑顔かがやく。』のもと、スイーツを通して心豊かな生活をお届けすることを基本姿勢として、安心、安全かつ高品質な商品をお客様に提供させていただくことに注力いたしました。また長引くコロナ禍の中で、引き続きお客様や従業員に対する感染防止対策を徹底しながら、生産性の改善、人員体制の最適化、コストの削減、適正在庫の確保に努めました。

売上面につきましては、2回目の緊急事態宣言の影響を受けた2月のバレンタイン商戦の売上が減少したのに加え、7月から発出された4回目の緊急事態宣言と変異型ウイルスによる感染急拡大により、8月～9月が厳しい売上高となりました。しかし、昨年4月～5月の1回目の緊急事態宣言時の反動や、10月以降の人出の増加による売上高の回復もあり、当第3四半期累計期間の売上高は16,386百万円（前年同期比4.1%増）となりました。

損益面につきましては、増収効果に加え、計画的・効率的な生産体制の構築、店舗の人員体制の最適化、経費の削減、売上状況に応じた適正在庫の確保などにより、営業損失は38百万円（前年同期は777百万円の損失）、経常利益は61百万円（前年同期は661百万円の損失）となりました。四半期純損失につきましては、新型コロナの影響を大きく受けた子会社、株式会社鎌倉ニュージャーマンに係る関係会社株式評価損311百万円を特別損失に計上したこともあり、350百万円（前年同期は632百万円の損失）となりました。

しかし、コロナ前である第90期（2020年1月期）同期比では、売上高は12.6%減、経常利益は18.6%減となりました。なお、第90期同期の営業利益は40百万円、四半期純損失は26百万円であります。従って、依然として新型コロナ感染拡大前の水準には回復していません。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

[洋菓子製造販売事業]

干菓子につきましては、前年度のバレンタインが新型コロナ感染拡大の影響が大きくなる前であったこともあり、本年度のバレンタイン専用商品の売上は減少したものの、バターにこだわった焼菓子ブランド「ガレット オブール」の新規出店に加え、インターネットやカタログ販売に注力し売上獲得に努めたことなどにより、売上高は1.2%増となりました。しかし、コロナ前である第90期（2020年1月期）同期比では、宣言や重点措置が繰り返し発出されたことにより人流が抑制されたことで、中元を含むギフト商品や土産商品等が低迷し、14.5%減となりました。

洋生菓子につきましては、「カスタードプリン」や新規商品「とろ生カスタードプリン（夏仕立て）」、期間限定商品「とろ生チーズケーキ」、8月にリニューアルした半生菓子「ロイヤルクリームチーズケーキ」などの好調に加え、創立90周年を記念した新商品「プリンとチーズケーキ」の発売効果もあり、売上高は前年同期比で13.0%増となりました。また、ステイホームに伴う自家需要もあったことから、コロナ前である第90期（2020年1月期）同期比でも、2.2%減まで回復いたしました。

その結果、当事業の売上高は15,536百万円（前年同期比4.1%増）となりました。しかし、コロナ前である第90期（2020年1月期）同期比では11.4%減となっております。

[喫茶・レストラン事業]

喫茶・レストラン事業につきましては、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により外出や移動の自粛が求められましたが、前年同期は商業施設の休業や営業時間短縮による落ち込みが大きかったことから、売上高は前年同期を上回る849百万円（前年同期比3.4%増）となりました。しかし、コロナ前である第90期（2020年1月期）同期比では29.9%減となっており、依然として厳しい状況が続いております。

(業績の季節的変動等について)

当社の売上高は季節的変動があり、バレンタインデー、中元、歳暮、クリスマスなどの大きなイベントが少ない第3四半期会計期間の売上高は、他の四半期会計期間の売上高と比べ減少する傾向にあります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は前事業年度末に比べ1,322百万円減少し、22,716百万円となりました。資産の増減の主なものは、現金及び預金の増加額1,986百万円、仕掛品の増加額583百万円、商品及び製品の増加額366百万円、受取手形及び売掛金の減少額3,758百万円、投資その他の資産の減少額386百万円等であります。負債は前事業年度末に比べ732百万円減少し、6,528百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の増加額282百万円、電子記録債務の減少額681百万円、未払法人税等の減少額252百万円等によるものであります。純資産は前事業年度末に比べ590百万円減少し、16,188百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少額561百万円、その他有価証券評価差額金の減少額30百万円等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年8月27日に発表いたしました2022年1月期の通期の業績予想について変更はございません。

なお、今後の経営環境等の変化により、業績予想について見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年1月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,417,188	5,403,992
受取手形及び売掛金	5,671,457	1,912,635
商品及び製品	2,051,132	2,417,388
仕掛品	325,788	909,757
原材料及び貯蔵品	373,282	476,671
その他	188,294	305,804
貸倒引当金	△22,660	△8,010
流動資産合計	12,004,482	11,418,239
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,537,767	2,388,563
土地	3,234,338	3,234,338
その他(純額)	1,873,855	1,697,704
有形固定資産合計	7,645,962	7,320,606
無形固定資産	120,020	95,204
投資その他の資産		
投資有価証券	1,626,061	1,581,006
その他	2,648,220	2,302,767
貸倒引当金	△5,240	△1,190
投資その他の資産合計	4,269,041	3,882,584
固定資産合計	12,035,024	11,298,395
資産合計	24,039,507	22,716,634

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年1月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	926,631	1,208,931
電子記録債務	1,706,124	1,025,083
短期借入金	1,850,000	1,850,000
未払法人税等	283,561	31,036
賞与引当金	224,210	472,471
その他	1,615,865	1,365,734
流動負債合計	6,606,392	5,953,256
固定負債		
退職給付引当金	74,677	79,238
環境対策引当金	2,085	—
その他	577,844	495,834
固定負債合計	654,607	575,072
負債合計	7,261,000	6,528,329
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,737,467	3,737,467
資本剰余金	3,921,919	3,919,740
利益剰余金	9,052,595	8,491,095
自己株式	△665,080	△660,754
株主資本合計	16,046,903	15,487,548
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	441,465	410,617
土地再評価差額金	290,138	290,138
評価・換算差額等合計	731,604	700,756
純資産合計	16,778,507	16,188,305
負債純資産合計	24,039,507	22,716,634

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年10月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年10月31日)
売上高	15,744,586	16,386,827
売上原価	8,440,339	8,475,560
売上総利益	7,304,246	7,911,266
販売費及び一般管理費	8,081,663	7,950,238
営業損失(△)	△777,417	△38,971
営業外収益		
受取利息	3,415	4,618
受取配当金	23,670	22,797
雇用調整助成金	—	31,465
保険解約返戻金	77,084	—
その他	37,888	66,575
営業外収益合計	142,058	125,457
営業外費用		
支払利息	20,484	21,384
その他	5,676	3,533
営業外費用合計	26,160	24,918
経常利益又は経常損失(△)	△661,519	61,567
特別利益		
雇用調整助成金	145,293	—
特別利益合計	145,293	—
特別損失		
固定資産除売却損	22,877	25,367
投資有価証券売却損	10,009	—
投資有価証券評価損	31,113	—
関係会社株式評価損	—	311,749
減損損失	80,600	3,804
従業員休業補償等	138,474	—
特別損失合計	283,075	340,921
税引前四半期純損失(△)	△799,302	△279,354
法人税、住民税及び事業税	62,099	125,810
法人税等調整額	△228,939	△54,608
法人税等合計	△166,840	71,202
四半期純損失(△)	△632,461	△350,556

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する会計上の見積りに用いた仮定について、重要な変更はありません。

3. 補足情報

販売実績

当第3四半期累計期間の販売実績をセグメント別商品群別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年10月31日)	前年同四半期比 (%)
洋菓子製造販売事業計 (千円)	15,536,876	104.1
(内訳)		
干菓子群 (千円)	10,569,642	101.2
洋生菓子群 (千円)	4,412,461	113.0
その他菓子群 (千円)	554,772	96.3
喫茶・レストラン事業計 (千円)	849,950	103.4
合計 (千円)	16,386,827	104.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

洋菓子製造販売事業における主な製品を商品群別の区分により説明しますと、以下のとおりであります。

区分 (商品群)	主要品目
干菓子群	(チョコレート) プレミアムチョコレートセレクション、フェイバリット、りんごのチョコレート、ラウンドプレーン等。
	(キャンディ) ファンシーキャンディ、ココアピーナッツ等。
	(焼菓子) ファヤージュ、アルカディア、オデット等。
	(デザート) ファンシーデザート、凍らせてシャーベット、フルーツオブフルーツ、白いチーズケーキ等。
	(詰合せ) ハッピーパーティ、サマーロイヤルタイム、サマーイング等。
洋生菓子群	(チルドデザート) カスタードプリン、季節のプリン、季節のゼリー、カフェデザート等。
	(ケーキ) チーズケーキ、チョコレートケーキ、ミニケーキ等。
	(半生菓子) ブロードランド、アーモンドケーキ等。
その他菓子群	焼きたてクッキー、グラスオショコラ等。